

テーマ1 移動手段の確保が難しい方への施策について 担当課:都市政策課、長寿福祉課

発言①

市では現在、移動手段の確保が難しい方への施策として「乗り合いタクシー」の活用を推進しているが、移動手段がない高齢者が振興センターや総合支所へ出向き申請手続きをする現在の仕組みも難しくなってくると思う。今後ますます高齢化が進むことが懸念されることから、市として今後の考えがあれば教えてほしい。

市側の回答 建設部長

東和地域の予約乗り合いバスは、利用者の予約に応じて自宅前の安全な乗り降りできる公道から東和地域内の様々な目的地まで複数の方の乗り合いで運行をするという公共交通機関である。

利用するにあたっては事前に利用者登録が必要で、利用者登録の方法は基本的に申請書に記載のうえ都市政策課、東和総合支所及び各振興センターにおいて提出することになっている。その他、市のホームページ、電子メールでも登録申請することができる。また、インターネット等の申請が難しい方については、代理の方の申請が可能である。例えば民生委員やご近所の方が申請書を持ってきたというケースもある。申請後1週間程度でご本人に登録完了の通知を郵送する。

指定乗降場所は、東和地域の公共施設や銀行、スーパー、病院などの日常生活に最低限訪れるような場所を指定しており、小山田地区を含む北部のお住まいの方は東和総合支所や小山田振興センターをはじめ、59ヶ所の指定乗降場所を目的地として選ぶことができる。

東和地域に住所または住居を有する方、その家族の方々が対象で、利用者自身が自分で乗り降りができ、荷物の上げ下ろしができる方が利用することができる。なお、ご自身での乗り降りが難しく介助が必要な場合は、介助する方が同乗いただければ利用が可能である。

運行内容は、令和7年度から運行日を拡充し、月曜日から金曜日の平日週5日間運行している。1日の運行時間は8時から17時までの間で、各地区から町内中心部へ向かう往路便が6便、町内中心部から各地区へ向かう復路便が6便の合計12便を運行している。

利用料金は1乗車600円、小学生や障がい者の方は300円としている。介助する方が同乗する場合は、介助する方の分の利用料金をお支払いいただく必要がある。

利用する際の予約は、利用する日の1週間前から当日運行する便の1時間前まで予約が可能である。ただし、朝の往路便の8時20分発と9時20分発の2便は、前日の17時までに予約が必要である。ご不明な点については都市政策課または東和総合支所にお問い合わせいただきたい。

令和7年度の東和地域全体の利用実績は、利用登録者数が1,369名、年間の延べ利用者数数は3,808名、そのうち実利用者は144名であり、1人当たり年間約26回利用している。そのうち小山田地区の利用者は、利用登録者数が231名、年間の延べ利用者数は780名、実利用者は35名であり、1人当たり年間約22回利用している。

利便性を高めるため運行日数を増やして運行しているが、利用する方が固定化され利用者数が伸び悩んでいる。持続的な公共交通として維持していくためにも、より多くの方にご利用いただきたい。免許返納等を考えている方、家族に送迎を頼んでいる方など移動手段にお困りである場合には、予約乗り合いバスを利用いただきたいと考えている。それ以外の方も平日のお出かけの際は、ぜひ積極的に乗り合い予約のバスをご利用いただきますようお願い申し上げます。

市側の回答 福祉部長

市では、高齢化が進む中、通院や日常生活の移動に困っている高齢者の増加を踏まえ、移動手段の支援に取り組んでいる。

まず、高齢者福祉タクシー事業について説明する。1人につき年間12,000円分の助成券を交付し、対象は、80歳以上の一人暮らしの方、または65歳以上の高齢者のみの世帯で80歳以上の方である。ただし、運転免許をお持ちで車を所有している方は、ご自身で移動が可能であると判断されるため、本制度の対象外となる。利用できる公共交通は、市内タクシーのほか、予約乗り合いバスや市内発着路線バス等でこの助成券が利用できる。

R8.7.2 小山田地区市政懇談会

次に、高齢者通院時交通費助成事業について説明する。病院など医療機関までの距離が遠く交通費の負担が大きい高齢者を支援するものであり、タクシー料金の片道料金が1,000円を超えた分には使用できる助成券を交付するものである。令和5年度までは片道料金が3,000円を超える部分について支援するとしていたものを1,000円まで下げて拡充した。対象は、先ほどの高齢者福祉タクシー事業の対象者に加えて、日中独居の方、若い方と同居している多世代世帯で、日中1人になる80歳以上の高齢者の方が対象となる。助成額は、自宅から医療機関までの距離に応じて4段階となっている。片道10キロ未満の場合は年間12,000円、10キロから20キロ未満の場合は年間18,000円、20キロから30キロ未満の場合は年間24,000円、30キロ以上は年間30,000円となる。本助成が利用できるのは市内のタクシー会社のみである。本制度は今年の3月まで一旦タクシー料金の全額をお支払いした後、市役所に来て請求手続きをしていたが、手続きの煩雑さや来庁の負担があったことから、今年4月からはそれぞれの上限額分のタクシー助成券を事前に配布する方式に改めた。

次に、介護保険制度の介護予防・生活支援サービス事業の一つである、ご近所サポーター事業についてご説明する。本事業の対象は介護保険の要支援の1、2に該当する方や介護予防のチェックリストで支援が必要と認められた方である。地域の団体の方々が自主的に運営し、掃除、洗濯、調理、ゴミ出し、買い物、除雪、草刈りなどのサービスを提供するものである。そのサービスの中で自動車による付き添い支援もあり、高齢者の移動支援となっている。サービスの種類や利用料金などは、活動団体ごとに設定されており、市は各団体の活動に対して補助を行う仕組みとなっている。現在、市内には13の団体が活動しており、そのうち10団体が自動車による付き添い支援を行っている。小山田地区では令和8年6月に、ご近所サポーター支援団体を立ち上げていただいたところである。このご近所サポーター事業利用実績は、令和7年度市内全体で延べ2,810回の利用があり、そのうち自動車による付き添い支援の回数は835回あった。

今後も制度の利便性の向上や制度の周知を図り、ご近所サポーター事業など地域の皆様と連携した支援体制に努めてまいりたいと考えている。

発言②

ご近所サポーター事業を今年6月から始め、お知らせのチラシを全戸配布した。実質的には7月から稼働し、現段階で8名の申し込みがあった。

付き添い支援として、病院や買い物の送り迎えや、話し相手ということで30分ぐらいお話をすることから手始めに行っている。

その他、困りごとがあれば随時やっていきたいと思う。

テーマ2 石鳩岡地域の農村の現状について

担当課: 定住推進課、防災危機管理課、農村林務課、東和総合支所地域振興課

発言

私は2015年に岩手県に来て、約10年間住んでいる。最初の3年は盛岡市に住み、その後東和町で農業研修をするために移住した。その間、百ノ沢の農業滞在施設住宅でお世話になり、約4年前に小山田石鳩岡の集落に移住定住した。

私が石鳩岡に移住して以来、3人の方が亡くなり空き家になった。人が減る一方で、集落で管理する農地は増える。農地放棄して自然に戻せばよいという意見もあるが、耕作放棄すれば、そこに野生動物が集まり、害獣被害は増える。石鳩岡のような中山間地では、電柵を張らないとニホンシカなどに根こそぎ農作物を荒らされ、イノシシ、クマ、タヌキ、ハクビシンも農作物の被害を与える。「野生動物に食べられるから畑を止めた方が安い」という声も聞くが、耕作放棄地の害獣被害が増えれば増えるほど、農業を続けることは難しくなる。

また、山林の皆伐も問題になっている。小山田を流れる絹川や添市川の上流域の石鳩岡集落で、山を削る杉造林地の伐採が4年前から進められている。その結果、生息域を失った動物が集落に下りてきていることが猟友会の調査で確認されている。さらに、2024年8月の豪雨では川を削る災害を引き起こしている。市が災害復旧を行った一方で、伐採許可は市が出している。農村にとって農地山林を利活用することに何の意味があるのか。

日本の食料自給率はカロリーベースで約38%と低い状況であり、食べ物を作り続けることは命を繋ぐ安全保障であり、もっと強調されるべきである。

耕作放棄地や空き家の増加は害獣被害の増加につながり、皆伐は豪雨災害を引き寄せる。逆に言えば、農地や山林を適切に保全し続けることは、害獣対策や防災の取組みとなる。東和地域の人間は、農業という点で食の安全保障と農地・山林の保全、防災を担っている。しかし中山間地の農村からは人が減り続けている。花巻市は全体で見ると子育て世代の転入者が増えているということだが、花巻市のホームページを見ると、人口が増加しているのは花巻・石鳥谷地区であり、大迫・東和地域は減少し、世帯数の増減も異なっている。花巻・石鳥谷地域と大迫・東和地域を分けて対策を考える必要があると感じる。地域の魅力を発信や住民が幸せに暮らせるようにすることは大事だと思うが、ビジョン先行で進めてしまうと各地域固有の課題が見落とされがちになる。

花巻出身者で地元に戻らない人への聞き取り調査を行えば、地元に戻らない具体的な理由が見えてくる。花巻・石鳥谷地域に転入してきた人への聞き取り調査を行えば、大迫・東和地域に欠けている点がわかる。逆に、大迫・東和地域に住んでいる若者や戻ってきた若者への聞き取り調査を行えば、私達が見落としている地域の魅力が見えてくるかもしれない。

ぜひ各地域にあった人口減少対策を行っていただきたい。一般的なイメージで対策をするのではなく、事実に基づいた地域に合った政策が必要だと考える。そのため、課題を可視化する調査の実施や、聞き取り調査を行う職員の育成などが急務となると思う。農村が切り捨てられることなく、ともに「イーハトーブ花巻」として存在し続けることを願う。

市側の回答 市長

様々な意見を聴くことの一つがこの市政懇談会であり、貴重なご意見に感謝申し上げます。

人口減少についての課題は決して簡単な問題ではなく、全国的には都市特に東京へ人口が集中している。仙台でさえ徐々に東京に人が流れている状況である。簡単な問題ではないが、先ほどお話いただいたように地域ごとに課題を切り分けて考えていく必要があると考える。アンケートなどの調査は難しいかもしれないが、このような意見をくださる場を大切にしていきたいと思っている。

先ほど具体的にお話をいただいた、鳥獣被害や耕作放棄地の増加は大きい課題の一つだと思っている。東和町は棚田や田畑を整備してきたという歴史があり、多くの補助金や負担金を入れながら行ってきた。耕作放棄されると他の方々への影響もでてくるというような積み重ねの歴史があるということで、何としても守っていかなければならないと思っている。

また、水害対策といった多面的な機能を重視される局面がある。国が来年度に向けた交付金制度の見直しを検討する中で、多面的な価値に着目した交付金の見直しも進められている。地域の実情

R8.7.2 小山田地区市政懇談会

をしっかりと伝え、皆様が安心して農業や暮らしを続けられる制度へと近づけるよう、私も行動していく。

皆伐については、戦後の植えられた木の伐期をむかえ、伐採が必要な時期になっている。自然災害への影響を確認しながら、伐採方法の工夫が求められると思うが、効率性や開発が必要なケースもあるかと思う。さらに、伐採後の植林などの取組みも必要だと思う。所有者もいて、産業として経済性も考えなければならないが、森林の環境面の機能とのバランスを保つ必要もあると思う。

旧花巻市の中でも上町などの中心市街地や住宅地、西側の中山間地などの問題それぞれ抱える課題は異なる。それぞれの課題に目を向けていかなければならないことだと思っている。引き続きこうして意見を交わしながら課題に合った取組みを進めていきたいと思っているので、今後ご意見をいただければと思う。

テーマ3 職員の対応について

担当課:人事課

発言

市職員の対応について気になる点があったためお伝えする

ある課から携帯に着信があったがその時は出られず、約10分後に折り返したが、その時出た職員に名前と10分前に電話があったことを伝えたが、何も言わずに保留にされた。私以外にもそのような経験された方がいるのではないかと思います、市の職員に対して不信感につながるのではないかと思います意見申し上げます。

市側の回答 東和総合支所長

市役所から差し上げたお電話に、折り返しをいただいたにも関わらず、不本意な対応をしてしまいお詫び申し上げます。

日頃から留守番電話に繋がった際に、課名や担当者の名前を残すように指導をしているところであったが、指導が行き届いていなかった。

今後は再発防止と信頼回復に努めてまいりたい。

テーマ4 市政懇談会について

担当課:地域づくり課、東和総合支所地域振興課

発言

住んでいる地区と違う地区に行き、他の地域の課題などを聞きたく今回参加した。

パワーポイントを使用しての説明は後ろからでも見やすく、資料だけの説明よりもよいと感じる。

資料を配布していただいているが、こちら側には机がなく椅子だけであるためメモが取れない。私はいつもこの説明会に行くときは自分でバインダーを持参しているが、説明を長時間聞きながら書き留めるのが非常に困難である。教育委員会の説明会でも同様で、机を出さず資料を配り説明を聞くだけと感じる。

市長は市民との対話を重視しているが、メモを取るのが大変で考えをまとめる暇もなく、質問ありませんかと言われても質問できない。事前に質問を準備している方は有利だと感じる。八幡地区よりも資料が多く見やすいが、読むのが大変で不親切に感じる。

市民にサービスの内容を伝えたいのであれば、誠意を示してほしい。机を出すなどの会場設営や、配布資料の見やすさなど、配慮をしていただければと思う。

市側の回答 市長

複数回参加いただき、また関心を持っていただき感謝申し上げます。

市政懇談会は基本的にこのような形式で実施しているが、いただいた意見を受け止めて、改善できる点は改善していきたいと思っている。

市政懇談会のように多くの方に集まっていただく市政懇談会のほか、メールやはがき、膝詰めで対話をする機会を設けているためご活用いただき、ご意見をいただければと思う。

市職員の日頃の細やかな振る舞いが不信を招いているかもしれないと感じており、組織のトップとしてその点にも注意していきたいと思っている。